

周波数の国際協調利用促進事業 令和2年度 継続評価結果

| 案件名 | | 実施期間 | 評価会での主なコメント | 評価点 |
|--------------------------|--|---------|--|-----|
| 空港交通システムの高度化技術の国際協調利用促進 | 空港面探知レーダー（マルチラテレーション）システム | H29-R02 | <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム国内での許認可の遅れがあり、8ヶ月遅れのスケジュールとなっているが、こうした遅延は、殊に海外での事業では良くあることであり、たとえ遅れたとしても品質が保証されていれば、問題ないと考える。 ・次年度の実施計画や実施体制は妥当。飛行計画の自動入力は重要な機能と考えられる。 ・結果として納品半年・工事開始8カ月の遅れがある、それが現地の許認可によるものである、ということ踏まえると、現地との調整が適切に進められているとは言えない。 ・CAAV（ベトナム航空局）がMOT（ベトナム運輸省）に説明しているようであり、現在までの人脈構築が効果的に働いていると考えられる。 ・実証システム構築やセミナー開催などの進捗度は標準的である。 | 3.4 |
| | 地上型衛星航法補強システム（GBAS） | R01-R04 | <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム内部の事情により変更を余儀なくされたとはいえ、対象国の変更の影響は大きい。 ・規模空港であるタイ・スワナブーム空港において使用されることは、シンボリックな意味としても意義は大きい。災い転じて福となす、を実現されたい。 ・相手国が変更となったことによって、調整や人脈構築が不足とならぬよう、十分な配慮をお願いしたい。 ・関係機関との連携、諸準備とも十分なものと認められる。 ・航空機輸送の安全に大きく関わる技術なので、安全第一で慎重に実施していただくことを希望する。 | 3.7 |
| 高度道路交通システムの通信技術の国際協調利用促進 | V2X（Vehicle-to-X：車車間通信、路車間通信等）技術を用いた安全運転支援システム | H30-R02 | <ul style="list-style-type: none"> ・インド実証実験では公道で実験を行い、交通制御の効果を確認している。またメディアでのアピールも行っている。フィリピン実証実験および台湾実証実験では大学内で基本性能を確認しており、予定通り進捗している。 ・2020年度の実施計画内容は多岐にわたるが、何れにおいても、今年度の成果をベースに着実に達成できるのではないと思われる。 ・計画された実施項目が順調に進んでいることから、対象国との人的関係も適切に構築されているものと推測できる。 ・今年度はインドでワークショップを開催し有識者と取り組み成果を共有している。次年度は台湾での展示会での公演も予定されており、国連のワークショップでの広報も実施している。 ・両国での実証実験の結果700MHz帯規格の見直しの必要性や成果の日本国内への逆輸入についても視野に入れておく方が良いのではなかろうか。 ・おおむねうまくいっているように思える。 | 4.3 |

| | | | | |
|------------------------------------|---------------------------|----------------|---|------------|
| <p>気象・防災プラットフォーム技術の国際協調利用促進</p> | <p>気象レーダーシステム</p> | <p>H29-R02</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア内部の要因ではあるが、当初予定より MoC（協力覚書）締結が遅れた影響は大きい。 ・MoC の遅れを取り戻し、年度末までにレーダーの設置まで行うための計画は、適切であろう。MoC の締結が更に遅れた場合はどうするのか、様々な場合を想定した計画を示してもらえると更に良かったと思う。 ・結果論として、MoC が得られていないことなどは、十分に調整ができていたとは言えない。 ・気象レーダーセミナーを実施するなど活動としては妥当。 ・残りの実施期間を考慮すると、上述の通り、MoC の行方次第で計画変更を余儀なくされないのか心配。 | <p>3.6</p> |
| <p>地上デジタル放送及び4k・8k 技術の国際協調利用促進</p> | <p>地上デジタル放送及び4k・8k 技術</p> | <p>H29-R04</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・アンゴラ、フィリピン及び中南米諸国の支援、地デジ高度化に関するブラジルとの連携、いずれも順調に実施と認められる。 ・アンゴラに対する規格案策定、フィリピンに対する技術支援、ブラジルにおける実証試験の実施など継続した実証計画は妥当。中南米諸国への専門家派遣は具体的な計画が不明。 ・個々の案件が順調に進められており、現地国との調整が適切に行われていることが反映されていると推測できる。 ・多くの実証や調査が企画されており、目標の達成に向けた実現性が伺える。 ・相手国の消費者がテレビ放送にどこまでの精度を求めているのか、受信するテレビの消費者向け価格が現地市場で受け入れられる価格帯におさまるのか等についても併せて検証していただければと考えます。 | <p>4.3</p> |